

小児科だより vol.106

魚卵アレルギー

2025.7.1 発行

こんにちは。梅雨に入り、雨に加えて蒸し暑い日々が続いております。小児科外来では、先月に引き続き胃腸炎のお子さんや、気管支喘息のお子さんが多く受診されています。また、発熱、咳、鼻水などが長く続くお子さんからは、パラインフルエンザウイルスが検出されることが多い印象です。いわゆる風邪ウイルスではありますが、せき込み嘔吐や喘息症状を起こすこともあり、心配な方は小児科外来にご相談ください。



さて、今月の小児科だよりは、『魚卵アレルギー』についてです。過去を振り返ると、『食物アレルギーと乳児湿疹』『口腔アレルギー症候群』『卵アレルギーとインフルエンザワクチン』『魚のアレルギー』『木の実類アレルギー』『エピペン®』など食物アレルギーに関して様々書いております。それぞれのタイトルで気になった方は、過去の小児科だよりをご参照下さい。

魚卵には、イクラ、タラコ、シシャモの卵、わかさぎの卵、数の子、とび子などがあります。わが国の即時型食物アレルギーの原因として7番目に多く、1~6歳では新規発症するアレルゲンとしては、2番目に多いとされています。原因食物の内訳は、イクラ、タラコの順に多いとされています。

イクラも鶏卵も『卵』であるということで、鶏卵アレルギーを持っているお子さんがイクラを食べないようにしていることがありますが、イクラと鶏卵の交差抗原性は明らかでなく、臨床的には無関係とされているため、イクラを除去する必要はないとされています。また、魚卵間でもイクラアレルギー患者が焼タラコ、子持ちシシャモでアレルギー症状を経験する割合は、25%、11%と高くないという報告もあります。

食物アレルギーは、食品を摂取してアレルギーが出ることと血液検査における特異的IgE抗体価との相関関係が強いものとあまりないものがありますが、イクラはある程度相関があると考えられています。そのため、イクラを食べて症状が出た場合やお寿司屋さんでなにかを食べて症状が出た場合などは血液検査が参考になります。

イクラアレルギーのお子さんの長期予後（その後）に関する報告はあまりありませんが、すでにイクラアレルギーと診断されている24例に対して、イクラ10gの負荷試験を行い8例（33%）は負荷試験陰性で耐性獲得されたという報告もあり、一部の方は自然経過の中で摂取可能となる可能性も推察されます。興味を持った方は、小児科外来でご相談ください。